

ライフサイクルアセスメント

20120523

ISO14000シリーズ

- ISOとは

- ジュネーブ(スイス)に本部を置く国際標準化機構
(International Organization for Standardization)

- ＝国際的な規格を作成する民間・非営利団体

- ギリシャ語のISOS(アイソス: 相等しい)が語源

- 日本工業規格: JIS(Japanese Industrial Standard)

- アメリカ規格: ASTM(American Society for Testing and Materials Standard)

- JIS部門別

- A: 土木及び建築、B: 一般機械、C...

- Q: 管理システム(←環境はここ)、T: 医療安全用具、W...

社会	循環型社会システム構築
組織	ISO14001環境マネジメントシステム(EMS)導入
個人	ライフスタイルの変革



各階層の取り組みが不可欠

- 環境保全の公平性・透明性

- EU経済統合にあたって欧州を中心に、公平性・透明性を求める機運が高まる
- EU理事会規則EMAS(環境管理・監査スキーム)制定
EMAS:Eco Management and Audit Scheme
- 1991年: 国際商業会議所(ICC)より「持続可能な開発のための産業界憲章」を制定し、産業界自ら環境管理に取り組むことをアピール
- 1992年: 英国規格協会(BSI)がEMAS・ICCを補完するためにBS7750を制定・・・これが発端
- 1992年: 「地球サミット(リオデジャネイロ)」で採択された「アジェンダ21」を受けて、「持続可能な開発のための経済人会議」が環境管理に関するISO規格づくりを提言
- 1993年: ISOの専門委員会としてTC207(環境管理)第1回会合

- 国際規格作成プロセス・・・各段階を踏む
 - － 提案段階
 - 新業務項目提案：NP
 - 承認済み業務項目：AWI
 - － 作成段階
 - 作業文書：WD
 - － 委員会段階
 - 委員会原案：CD
 - － 承認段階
 - 国際規格案：DIS
 - 最終国際規格案：FDIS
 - － 発行
 - 国際規格：IS

TC:専門委員会、SC:作業部会、WG:ワーキンググループ、
TS:技術仕様書、TR:技術報告書

- ISO/TC207:環境の規格

- SC1,2,3,4,5,6,7

- SC1

- 環境マネジメントシステム

- » (-01:要求事項及び利用の手引き、-04:原則、システムおよび支援技法の一般指針)

- SC3

- 環境ラベル

- » (-20,-21,-24,-25)

- SC5

- ライフサイクルアセスメント

- » (-40,-44,TR-47・49,TS-48)

- SC7

- 温室効果ガス、検証機関に対する要求事項、検証員の力量
(66:CD段階)、カーボンフットプリント(算定方法:67-1、表示方法:
67-2、WD段階、技術的手引:69 AWI段階)

- WG2,3,4,7,8

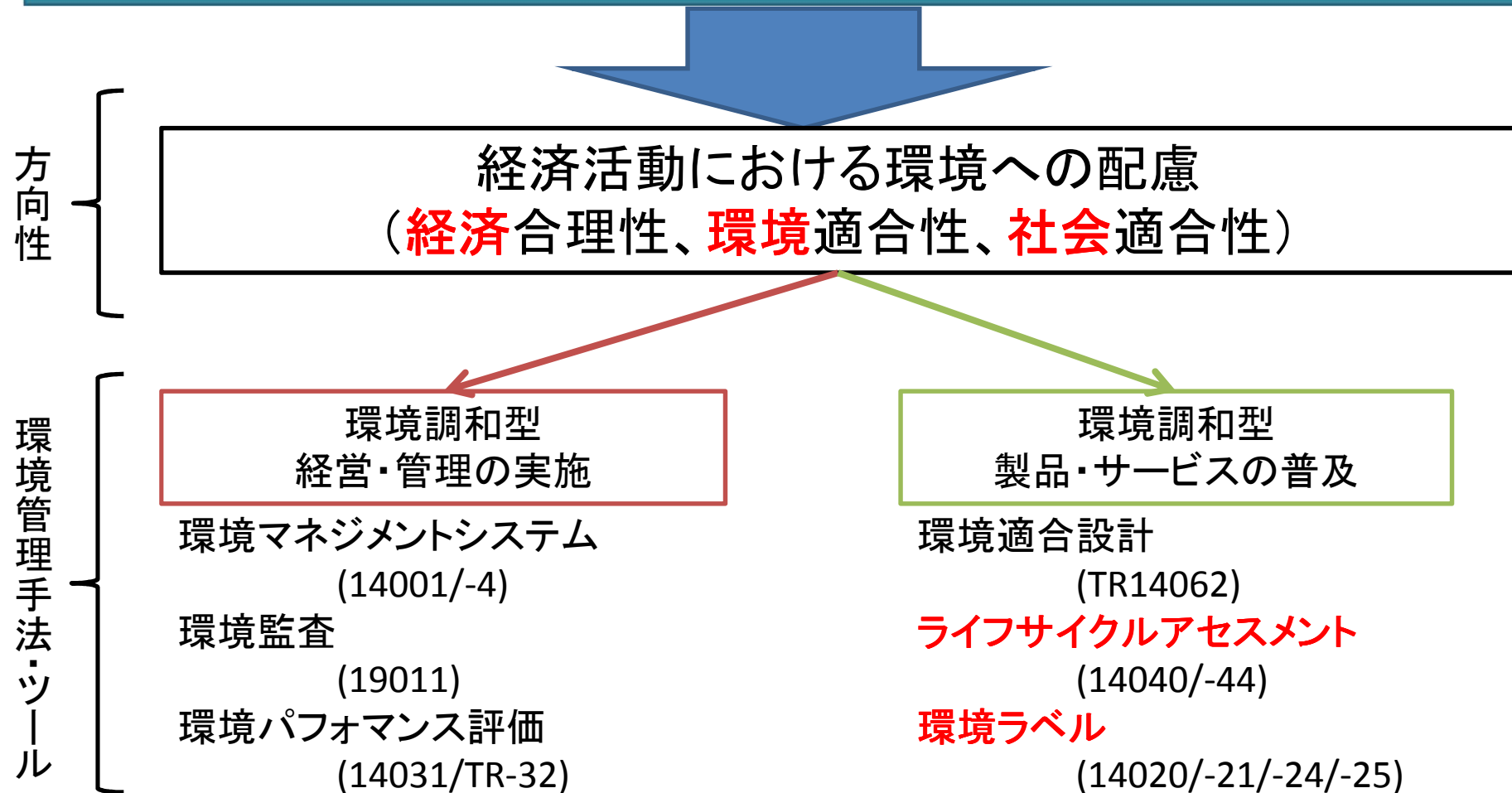
- TC176/SC3、TC207/SC2

- (こころへんは色々あるってことだけ押さえておけばいい)

ISO140XY

- 持続可能な発展をするために

持続可能な開発＝環境調和型経済社会の構築



ライフサイクルアセスメント

20120523

信州大学環境マネジメントシステムの概要

－ (財)日本適合性認定協会(JAB)

- 会社や財団法人が合計43機関所属。ここで審査
 - － JRであれば「財団法人：鉄道総合技術研究所ISO審査登録センター」に依頼等

－ 信州大学の依頼先

- (株)日本環境認証機構(JACO)
- 日本検査キューエイ(株)
- (財)日本品質保証機構マネジメントシステム部門

－ ISO14001認証取得事例(工学部)

- 環境方針を記載
 - － それに基づいて環境内部監査をする
 - » 内部監査員は教員以外に学生もなれる
 - － 環境教育も施す
 - － これらを環境記録の形で残す

- ISO14001環境マネジメントシステム

- Plan-Do-Check-Actionサイクル(PDCAサイクル)を毎年繰り返す、継続的改善を図る

- 環境方針に基づいて...



- Plan(計画)
 - Do(実施及び運用)
 - Check(点検)
 - Action(マネジメントレビュー)

- これを毎年実施していき、継続的改善につなげていく。

- 松本キャンパスの環境側面と環境影響

- Input

- エネルギー：材料、部品、商品

活動を経て・・・

- Output

- 廃棄物

– これらを洗い出し、PDCAサイクルを回す

- 環境側面の評価→目的・目標→プログラム策定→運営管理 → 見直し→目的・目標→・・・



内部監査